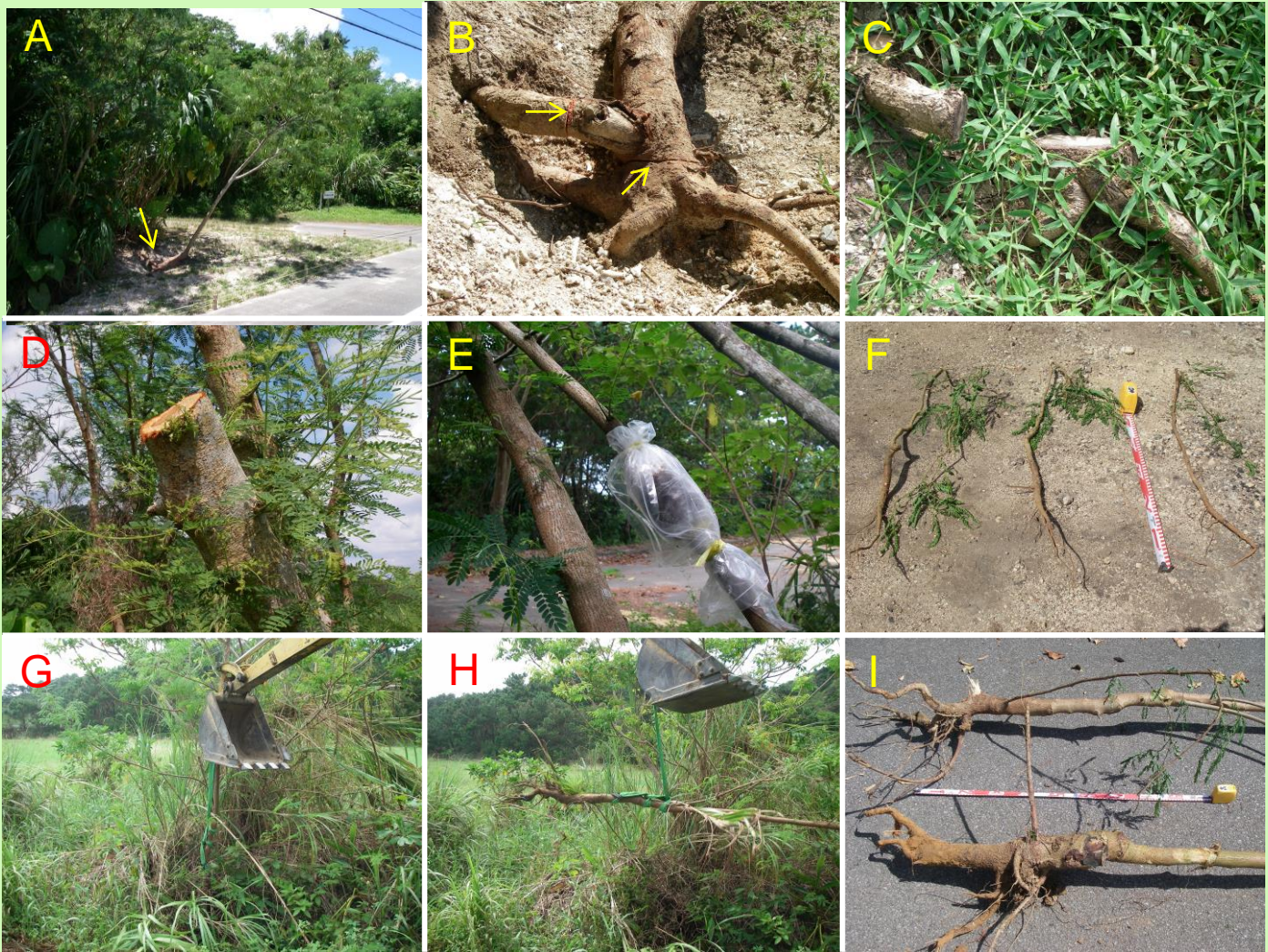


ギンネムの駆除（二つの方法）

外来植物のギンネムは生活・自然環境に弊害をもたらすため駆除されるが、この方法として茎への薬剤注入、切株への被覆等がされている。ここでは比較的容易な二つの方法を紹介する。



ギンネムは根から芽(茎)を出すことの無い種と考えられ、根を切断することで枯死を誘導できる(A-C; 矢印は切断部; CはBの3か月後)。茎を切断すると、切断部の下から芽が出る(D)。茎が土壌で覆われると不定根が出ると推測され、この不定根より下の茎を切断すると芽が出ることも推測される。これらを確認するため、取り木の方法で実験を進めている(E)。ギンネムの株を引き抜くことで駆除が可能となるが、土壌が柔らかいと茎の直径、約1cm までの株を素手で引き抜くことができる(F)。小型ショベルカー(コマツPC30MR)を用いると直径、約10 cm までの株を引き抜くことができる(G-I)。ギンネムの最大級株の茎の直径は約10 cm であるため、ほぼ全てのギンネムを引き抜きという方法で駆除できそうである。

<ここでの方法は他で紹介されているでしょうから、文献等の情報がありましたらお知らせ下さい。>

(助成: 自然保護助成基金、沖縄しまたて協会)